

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆タンス預金13兆円減少、ピーク比2割減 金利上昇や強盗リスク意識か

・現金を自宅の金庫などで保管する「タンス預金」が2025年7月に約47兆円となったもよう。低金利を背景に23年1月時点で過去最大の60兆円規模まで膨らんでいた。金利上昇などの影響のほか、近年相次いだ広域強盗事件などを意識して自宅に多くの現金を置くことを避ける動きが広がった可能性もある。

◆実質賃金、プラス定着なお見えず ポーナス押し上げで7月7カ月ぶり増

・厚生労働省が発表した7月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上の事業所)によると、物価変動を除いた実質賃金は前年同月比で0.5%増だった。7カ月ぶりにプラスに転じた。ボーナスの押し上げ効果が大きいとみられ、賞与の影響が薄れる8月以降もプラス傾向が続くかは不透明。

◆景気動向指数2.6ポイント減 7月、出荷生産鈍く判断据え置き

・内閣府が発表した7月の景気動向指数(速報値)は足元の経済状況を示す一致指数(2020年=100)が113.3と前月比で2.6ポイント低下。低下は2カ月ぶり。自動車の生産や出荷に関連する指数が全体を押し下げた。指数を基に機械的に決める基調判断は「下げ止まり」で据え置いた。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆25年度建設投資 3.2%増の75.5兆円を予測 住宅は1.1%増

・国土交通省が公表した2025年度の「建設投資見通し」によると、建設投資の総額は前年度比3.2%増の75兆5700億円となる見込み。住宅投資は官民合わせて同1.1%増となる16兆7800億円になる見通した。資材価格や労務費といった建設コストの上昇が、投資額を押し上げる要因になっていると考えられる。

◆都内の中小ビル、10年で東京ドーム25個分減少 マンションに転用

・東京23区で中小オフィスビルが減少している。この10年間に床面積ベースで東京ドーム25個分が消失する見通し。オーナーの高齢化や修繕コストの高騰を背景に、不動産デベロッパーが買い取って需要が旺盛なマンションへ建て替えるケースが目立つ。老朽化に伴う低稼働のオフィスが淘汰され、空室率の押し下げが進みそう。

◆ダイキン、米国でエアコン「ドブ板営業」 原点回帰で販売店を訪問

・ダイキン工業が米国のエアコン市場で販売店を一軒一軒まわる「ドブ板営業」に取り組んでいる。2024年に販売店の注文に対応できず約8000店もの販売店との取引が中断されたが、挽回を目指す。米国で珍しい営業手法は、日本で後発だったダイキンが業界首位に上り詰めた原動力でもある。

《 注目商品 》

■ダイソン、睡眠の質に影響を与える汚染物質も静かに除去する空気清浄機

・最小13dBという極めて静かな運転音で、睡眠の質に影響を与える汚染物質まで除去することができる「Dyson HushJet(TM)(ダイソン ハッシュジェット)空気清浄機」を発表。パワフルな気流を生み出しながら、きれいな空気を静かに部屋全体に届ける。



■リンナイ、イタリアデザインのレンジフード「AGG」シリーズ

・イタリアデザインのレンジフード「AGG」シリーズを発表。イタリアのエリカ社と富士工業の合弁会社であるアリアフィーナのブランドフィロソフィーを踏襲したレンジフード。風量おまかせ運転や、お掃除のしやすい構造により、美しさと機能性を兼ね備える。



■パナソニック 健康を支援するバスルーム、電気式床暖房+平手すりを搭載

・システムバスルーム「BEVAS(ビバス)」から、電気式床暖房を備えた「ヒートセーフstyle」の提案を開始。超高齢社会における住まい手の安心と健康に対応するため、浴室空間を「住宅の中でできる生活習慣支援づくり」の場としても定義。安心感やあたたかさをテーマに開発。

